

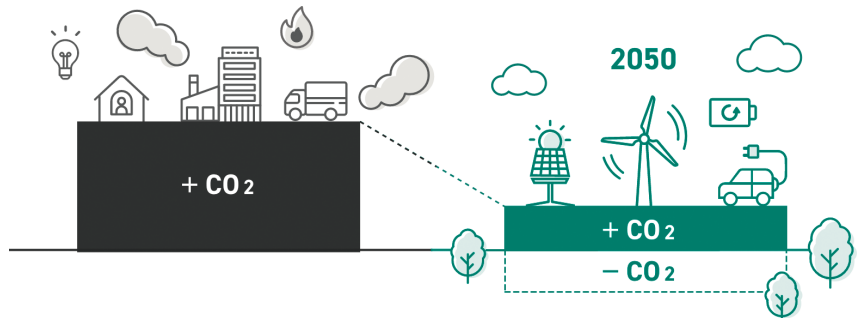


いちき串木野市の 脱炭素社会の実現に向けて

2020年10月、国では2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことが宣言されました。本市においても、「環境維新のまちづくり」を推進し、再生可能エネルギー導入促進と自治体新電力などを通じて、エネルギー施策と産業振興を組み合わせ、持続可能な社会を目指すとともに、脱炭素社会の実現に取り組んでいます。

1. カーボンニュートラルってなに？

カーボンニュートラルとは、温室効果ガス(CO₂)の排出量と吸収量をイコールにし、「排出量を全体としてゼロ」にすることを意味します。



出典：環境省「脱炭素ポータル」サイト

2. 広がる再エネの可能性：次世代型太陽電池って？

社会を変える、新しい太陽電池

再生可能エネルギーの導入が進む一方で、「設置できる場所に限られる」「景観や地域との調和が課題」など、従来型の太陽光発電にはいくつかの制約があります。

そこで注目されているのが、次世代型のペロブスカイト太陽電池です。従来のパネルと比べて軽く、薄く、柔らかいため、これまで設置が難しかった屋根や壁面、耐荷重の低い場所にも導入できる可能性があります。

国でも実証や導入支援、生産体制の整備が進められており、実用化に向けた動きは大きく加速しています。

薄く、軽く、曲がる

従来のシリコン型太陽電池と比べて非常に薄くて軽量。曲面や建物の壁面など、これまで設置が難しかった場所にも導入できます。

大量生産とコスト低減が可能に

新しい製造技術の開発が進んでおり、将来的には大量生産によりコストを抑えられます。

日本で生まれ、国産資源で製造できる

この技術は日本生まれ。主要原料である「ヨウ素」の約30%は日本国内で産出されており、安定供給が見込めるエネルギー源としても期待されています。

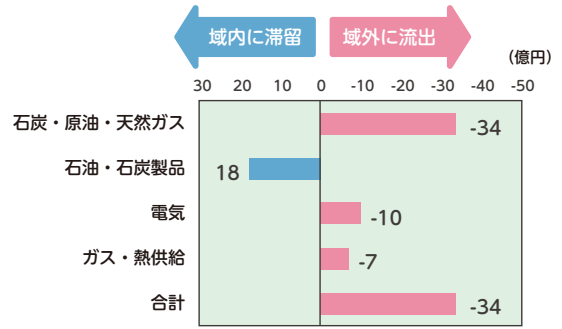


3.本市の現状

①エネルギー収支

本市のエネルギー収支はマイナス34億円で、「電気」だけでも年間約10億円が域外に流出しています。この資金を再生可能エネルギーの導入や投資に変えることで、流出していたエネルギー代金を抑えるとともに、これまで域外に流出していた所得が地域内に留まることとなります。

※エネルギー収支とは、エネルギーの域外への販売額から域外からの購入額を差し引いた指標です。



出典:「地域経済循環分析【2022年版】」
(環境省、株式会社価値総合研究所)

②自治体新電力の活用 ~私たちの電気代が、まちの未来に~

エネルギー収支を改善し、地域が主体となってカーボンニュートラルに向けて効果的に取り組んでいくために、全国的に行われている取組が、自治体新電力の設立やその活用です。

本市では、2016年に設立された自治体新電力「**いちき串木野電力**」があり、次のような効果が生まれています。

地域にお金が残る

市内でつくった電気を市内で使うため、電気代の域外への流出が抑制。

災害に強い

地元の太陽光などで発電し、災害時でも安定供給（エネルギー自給）。

環境にやさしい

二酸化炭素を排出しないクリーンな再生エネで、カーボンニュートラルへ貢献。

地域貢献

電力事業の収益を地域還元、子育て、高齢者福祉などの地域課題の解決。



エネルギー供給管理による
再生エネ導入
可能量拡大

新たな事業開発による
雇用創出と
税収増加

利益を財源とした
地域の生活支援
サービスの充実

災害時の電力供給や
電気代の割引等による
地域の魅力度向上

地域のための電力供給事業による様々な地域還元

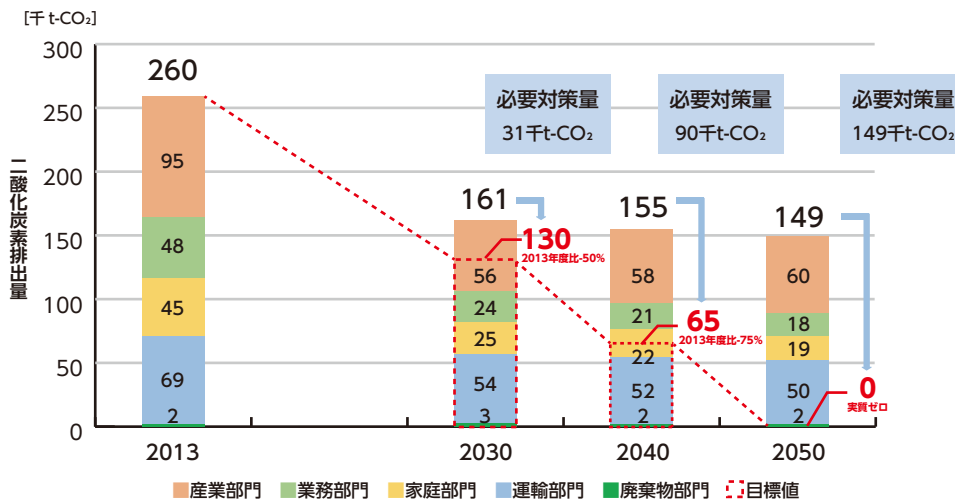
4. 脱炭素に向けた本市の取組

①地球温暖化対策実行計画を策定(2023年度)

2030年の温室効果ガス排出量の削減目標は、2013年度比マイナス50%とします。また、長期目標として2050年温室効果ガス排出量の実質ゼロ(ゼロカーボン)を目指します。



[本市の2050年ゼロカーボンに向けた脱炭素シナリオ]



2050年カーボンニュートラルに向けて、市全体で目指すべき将来像を共有するために、「将来ビジョン」を設定しています。

[本市の将来ビジョン]



出典: いちき串木野市 地球温暖化対策実行計画区域施策編

②次世代再生可能エネルギーの導入計画(2025年度)

本市においても、これまでの太陽光発電では十分に活用されていない屋根や壁面、耐荷重性の低い場所などでの利用が可能となるペロブスカイト型太陽光発電の公共施設への導入に関する導入可能性調査を行いました。

今後、国や先行自治体などの動向を注視しながら、本市への導入を計画しています。



5. 中高生だからできる脱炭素行動

国の「ゼロカーボンアクション30」のうちできること

節電

家庭からの電気消費量のうち、約5%も待機電力で消費されています。待機電力をなくすためにも、こまめなスイッチオフと、電気製品のプラグをコンセントから抜くことを心がけましょう。

CO₂削減量/年 エアコン26kg/台

節水

上下水道の使用にも、浄水、供給、下水処理などにエネルギーを消費しており、CO₂排出につながっています。こまめに水を止めたり、工夫して使用し、無駄な水を少しでも減らしましょう。

CO₂削減量/年 11kg/世帯

スマートムーブ

近い距離はできるだけ歩いたり自転車に乗るようにすると、健康的な生活にもつながります。徒歩、自転車や公共交通機関など自動車以外の移動手段の選択(スマートムーブ)を積極的に利用していきましょう！

CO₂削減量/年
エコドライブ148kg/人

食事を 食べ残さない

日本の食品ロス量は、1人1日あたりにぎり約1個分。自分の食べられる量の注文をし、もし残す場合は持ち帰りましょう。

CO₂削減量/年 54kg/人

服は長く 大切に着る

日本の衣類廃棄量は年間約“100万トン”。“1人あたり”なんと約26枚。洗濯表示を確認する、適切にケアする、先のことを考えて買うなど、気に入った1枚を長く大切にすることもサステナブルなファッションとの付き合い方です。

CO₂削減量/年 194kg/人

環境に配慮 した服を選ぶ

世界的に洋服の廃棄問題は深刻で、様々なブランドが環境に配慮した素材や方法で洋服を作成しています。購入時にリサイクル・リユースなど環境に配慮した素材や製造過程なども確認してみましょう。

CO₂削減量/年 29kg/人

使い捨てプラスチックの 使用をなるべく減らす。 マイバックマイボトル等を使う

プラスチックごみの不適正な処理は生態系にも影響を及ぼしています。ごみを減らすため、マイボトルやマイバッグなど繰り返し使える製品を持ち歩きましょう。

CO₂削減量/年
マイボトルの活用4kg/人
マイバックの活用1kg/人

修理や 補修をする

Repair(リペア)とは、ものが壊れた時に修理して、できるだけ長く大切に使うことです。古くなったり壊れたりしたものをリメイクすることなども、とても重要です。

CO₂削減量/年
ホビー製品を長く使う113kg/人
家電製品を長く使う45kg/人 など

フリマ・ シェアリング

フリマアプリの利用者は年々増加し、その市場を拡大しています。物を捨てる時・増やす時に選択肢として、フリーマーケットで売る、シェアリングやサブスクリプション(定額料金による一定期間のサービス・コンテンツ利用など)を利用するという選択肢を持ちましょう。

CO₂削減量/年 40kg/人

ごみの 分別処理

「3R」(リデュース(ごみの発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用))は、CO₂排出量減につながります。まずは減らす工夫をしてみましょう。回収された資源ごみから梱包資材など日常生活に欠かせないリサイクル製品を作り出すことができます。

CO₂削減量/年 4kg/人

脱炭素型の製品・ サービスの選択

商品を選択する時、環境配慮マークの付いた商品やCO₂排出量が見える化して商品に表示されている商品を進んで選択してみましょう。環境に配慮する製品やサービスの供給量が増え、商品の多様化・価格低減化につながります。また、環境に配慮する企業を応援できます。

CO₂削減量/年 0.03kg/人

植林や ごみ拾い等の活動

地球温暖化の現状は他人事ではなく、一人ひとりの行動の上に成り立っています。地域の環境活動などに参加してみましょう。環境を大事にする気持ちを行動で表せます。また、脱炭素アクションの取組を発信・シェアすることで取組の輪を広めることができます！

CO₂削減量/年 0.8kg/本

令和7年度エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費補助金(経済産業省)を活用して作成したものです(2026年)